

Ⅳ 看護機器

Ⅴ 生活指導

Ⅵ その他 在宅ケア、家族指導など

## 2) 入浴看護に関する研究

部 会 長

松 家 豊

筋ジ看護の中で、入浴の占める比重は大きい。また、各施設共通の課題で多大の問題をかかえているのが現状である。要は看護の中で負担を少くしそのことが医療全体のサービスに還元されることがこの研究の主眼である。

- 研究にあたり問題となっている点は、
- 1.患者の特性として変形、重症化、重い体重
  - 2.介助者の特性として熟練とか疲労
  - 3.作業条件で姿勢、作業の高さ、作業時間、移送方法
  - 4.設備とその環境
- などがあげられる。

共同研究参加施設は、八雲、岩木、西多賀、下志津、東埼玉、新潟、鈴鹿、医王園、再春荘、南九州である。

6つのサブテーマとそのとりまとめは次の通りである。

1. 入浴設備（西多賀）
2. 入浴介助（刀根山）
3. 入浴用具（下志津）
4. 介助者の検討（東埼玉）
5. 患者への影響（鈴鹿）
6. 入浴システム（徳島）

本年度の成果の要点は、

1. 重症者用のエレベートバスは変形をつよい患者では工夫がいる。そのために浴用担架の改良が行われた。（西多賀）
2. 介助方法についてはその問題点がアンケートにより詳細に指摘され、今後の研究の方向づけがなされた。（刀根山）
3. 入浴方法では依然、抱かかえの施設が多く、看護労力の投入が大きな負担となっていた、現状では機械導入は少なく、詳細な検討がのぞまれる。そこで抱かかえ、ベルトコンベアー、エレベートバスの3方式の検討が行われることになった。（徳島）

以上のほかに、51年12月3日、研究推進のために参加施設の研究打合せ会が開かれた。その結果、入浴の合理化のために介助を中心とした能率向上の方法、これに関連した設備、用具の問題、腰痛対策、重症者介助などを重点項目として今後、研究をつづけることになった。

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

筋ジ看護の中で、入浴の占める比重は大きい。また、各施設共通の課題で多大の問題をかかえているのが現状である。要は看護の中で負担を少くしそのことが医療全体のサービスに還元されることがこの研究の主眼である。